

## 第4 火山の活動状況

### 桜島の火山活動

#### (1) 令和5年の概況

##### 噴煙など表面現象の状況

- ・ 南岳山頂火口の噴火活動は、2022年7月中旬頃から2023年5月頃にかけて活発だったが、6月以降は低調。10月中旬から下旬にかけて再び活発になり、噴火回数は175回（前年235回）、爆発は85回で前年と同程度だった。噴石は最大で火口から1,000～1,300mまで飛散し、噴煙は最大3,600mまで上がった。
- ・ 10月24日の03時46分に噴火が発生し、04時30分頃まで継続。噴煙は3,400mまで上がり、噴石は1,200mまで飛散した。降灰は黒神町～有村町にかけて少量以上、多量の降灰が黒神町の一部で観測された。
- ・ 昭和火口の噴火活動は、2018年4月4日以降は極めて低調だったが、2023年2月8日に再度噴火が発生。噴火回数は40回、爆発は4回。噴石は500～800mまで飛散し、噴煙は最大2,700mまで上がった。

##### 地震や微動の発生状況

- ・ 火山性地震の年回数は1,900回で、前年（2022年：1,439回）に比べ増加した。7月下旬には桜島の南西側を震源とする火山性地震が増加し、7月26日10時54分には、やや規模の大きな火山性地震（M3.1）が発生し、最大震度2を観測した。この地震活動は、8月以降は低下傾向となった。
- ・ 震源は、主に南岳直下の深さ0～3km付近、北岳直下の深さ0～1km付近、桜島南西側の深さ6～11km付近及び桜島東側の深さ7km付近に分布した。
- ・ 1月中旬頃から連続的な火山性微動が発生していたが、昭和火口において噴火が発生した2月8日に停止し、以降は南岳山頂火口や昭和火口の噴火に伴う火山性微動が時々発生した。火山性微動の継続時間の年合計は472時間27分で、前年（2022年：113時間39分）に比べ増加した。

##### 地殻変動の状況

- ・ 桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計では、1月中旬頃から山体の膨張（隆起）を示す緩やかな地殻変動がみられていたが、2月中旬頃から鈍化し3月中旬頃から概ね停滞した。また、10月頃から11月頃にかけて山体膨張及び収縮を示す地殻変動が時々みられ、これらのうち10月9日頃からみられた山体膨張は同月11日07時52分に発生した噴火等により、同月21日頃からみられた山体膨張は同月24日03時46分から04時30分頃にかけて発生した噴火により、それぞれ解消した。
- ・ GNSS連続観測では、桜島島内の一部の基線で1月頃から山体膨張に伴うとみられるわずかな伸びが認められていたが、4月頃からは停滞。また、始良カルデラ（鹿児島湾

奥部) を挟む基線では、長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられた。始良カルデラの地下深部には、マグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられる。

### 降灰の状況

- ・ 鹿児島地方気象台では、年合計では  $107\text{g}/\text{m}^2$  (降灰日数 73 日) の降灰を観測し、月別では 10 月が最も多く、月合計  $61\text{g}/\text{m}^2$  であった。なお、過去最大は、1985 年に鹿児島市荒田で観測した年合計  $15,908\text{g}/\text{m}^2$ 。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した 2023 年の火山灰の総噴出量は、約 55 万トン (2022 年 : 約 36 万トン) で、噴火活動が活発となった 10 月に増加した。

### 火山ガスの状況

- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の 1 日あたりの放出量は、1,000~4,200 トンであった。火山ガスの放出量は 2022 年 7 月以降、概ね多い状態で経過した。

### 南岳山頂火口及び昭和火口の状況

- ・ 繰り返し実施した桜島島内及びその周辺における赤外熱映像装置による観測では、昭和火口近傍及び南岳南東側山腹で、これまでと同様に地熱域を確認したが、特段の変化は認められなかった。
- ・ 南岳山頂火口においては、2 月 8 日に実施した観測で微弱な火映を、9 月 27 日に実施した観測において、肉眼でようやく認められる程度の火映を確認した。
- ・ 12 月 7 日に実施した観測では、注意深くしていると聞こえる程度の鳴動を観測した。
- ・ 繰り返し実施された上空からの観測では、南岳山頂火口内及び火口周辺の状況に特段の変化は認められなかった。
- ・ 昭和火口内では、3 月 8 日の観測において、2 月 8 日から噴火が発生していると思われる火孔を確認した。
- ・ 10 月 25 日の観測では、昭和火口内北側の火孔から白色の噴煙が火口縁上 100m 程度直上に上がっており、火孔が 3 月 8 日観測時と比較してやや拡大しているのを確認した。いずれの観測でも火口内に地熱域を確認した。

## (2) 各月の経過

### 【1月】

- ・ 南岳山頂火口では噴火が 14 回 (2022 年 12 月 : 20 回) 発生し、このうち爆発は 9 回 (2022 年 12 月 : 11 回)。また、同火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 鹿児島地方気象台 (東郡元) では、月合計  $2\text{g}/\text{m}^2$  (降灰日数 2 日) の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の 1 日あたりの放出量は、1,000~2,800 トン (2022 年 12 月 : 1,400~2,800 トン) 火山ガスの放出量は 2022 年 7 月以降、概ね多い状態で経過。

- ・ 火山性地震の月回数は121回で、前月（2022年12月：78回）と比べ増加した。
- ・ 火山性微動の回数及び継続時間は1月中旬頃から増加し、継続時間の月合計は269時間7分（2022年12月：5時間30分）だった。

## 【2月】

- ・ 南岳山頂火口では噴火が26回（1月：14回）発生し、このうち爆発は11回（1月：9回）であった。同火口ではほぼ連日、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 昭和火口では、2018年4月4日以降、ごく小規模な噴火を含め噴火が発生しなかったが、8日から噴火活動が時々見られ、噴火が4回発生した。なお、爆発は発生しなかった。同火口では8日及び21日から26日にかけて、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計6g/m<sup>2</sup>（降灰日数7日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、1,900～3,500トン（1月：1,000～2,800トン）だった。
- ・ 火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過。
- ・ 火山性地震の月回数は130回で、前月（1月：121回）と同程度。
- ・ 1月中旬頃から連続的な火山性微動が発生していたが、昭和火口において噴火が発生した8日に停止し、以降は南岳山頂火口や昭和火口の噴火に伴う火山性微動が時々発生した。
- ・ 火山性微動継続時間は月合計179時間33分（1月：269時間7分）だった。

## 【3月】

- ・ 南岳山頂火口では噴火が22回（2月：26回）発生し、このうち爆発は8回（2月：11回）だった。また、同火口ではほぼ連日、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 昭和火口では、上旬に噴火が8回（2月：4回）発生した。爆発は発生しなかった（2月：なし）。また、同火口では4日から5日にかけて、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計9g/m<sup>2</sup>（降灰日数6日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、2,100～3,500トン（2月：1,900～3,500トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過。
- ・ 火山性地震の月回数は97回で、前月（2月：130回）と比べやや減少した。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、継続時間は月合計40分（2月：179時間33分）だった。

## 【4月】

- ・ 南岳山頂火口では噴火が2回（3月：22回）発生し、爆発は発生しなかった（3月：8回）。また、同火口ではほぼ連日、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 昭和火口では、ごく小規模なものも含め噴火は発生しなかった（3月：噴火8回、爆発

なし)。昭和火口では火映は観測されなかった。

- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計 $3\text{g}/\text{m}^2$ （降灰日数4日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、1,800～2,700トン（3月：2,100～3,500トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過。
- ・ 火山性地震の月回数は38回で、前月（3月：97回）と比べ減少した。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、継続時間は月合計13分（3月：40分）だった。

#### 【5月】

- ・ 南岳山頂火口では噴火が17回（4月：2回）発生し、このうち爆発は10回（4月：なし）だった。また、同火口ではほぼ連日、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 昭和火口では、噴火が11回（4月：なし）発生した。爆発は発生しなかった（4月：なし）。また、同火口では夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計 $10\text{g}/\text{m}^2$ （降灰日数13日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、1,800～3,900トン（4月：1,800～2,700トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過。
- ・ 火山性地震の月回数は88回で、前月（4月：38回）と比べ増加した。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、継続時間は月合計24分（4月：13分）だった。

#### 【6月】

- ・ 南岳山頂火口では噴火4回（5月：17回）発生し、このうち爆発は2回（5月：10回）だった。また、同火口では夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。
- ・ 昭和火口では、噴火が7回（5月：11回）発生。このうち爆発は1回だった（5月：なし）。また、同火口では1日の未明及び夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計 $3\text{g}/\text{m}^2$ （降灰日数8日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、1,400～1,900トン（5月：1,800～3,900トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過。
- ・ 火山性地震の月回数は73回で、前月（5月：88回）と比べ同程度だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、継続時間は月合計19分（5月：24分）だった。

#### 【7月】

- ・ 昭和火口では、噴火が8回発生し、このうち爆発は3回だった（6月：噴火7回、爆発1回）。また、同火口では、中旬の夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 南岳山頂火口では、噴火及び爆発は発生しなかった（6月：噴火4回、爆発2回）。また、同火口では夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、降灰は観測されなかった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、1,600～3,200トン（6月：1,400～1,900トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過した。
- ・ 23日頃から桜島の南西側を震源とする火山性地震が増加。南岳直下の火山性地震は少

ない状態で経過した。

- ・ 桜島の火山性地震の月回数は545回（6月：73回）で、このうち南西側を震源とする火山性地震は433回（6月：11回）だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、継続時間は月合計65分（6月：19分）だった。

#### 【8月】

- ・ 南岳山頂火口では、噴火が3回発生し、このうち爆発は3回だった（7月：噴火、爆発なし）。また、同火口では夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。
- ・ 昭和火口では、噴火が2回発生した。爆発は発生しなかった（7月：噴火8回、爆発3回）。
- ・ 同火口では、火映は観測されなかった。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計7g/m<sup>2</sup>（降灰日数10日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、1,800～3,300トン（7月：1,600～3,200トン）だった。
- ・ 火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過している。
- ・ 火山性地震は少ない状態で経過した。火山性地震の月回数は163回（7月：545回）で、このうち南西側を震源とする火山性地震は84回（7月：433回）だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、月合計継続時間は4分だった（7月：65分）だった。

#### 【9月】

- ・ 南岳山頂火口では、噴火が4回発生し、このうち爆発は3回だった（8月：噴火3回、爆発3回）。また、同火口では期間を通して夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 昭和火口では、噴火及び爆発は発生しなかった（8月：噴火2回、爆発なし）。また、同火口では、火映は観測されなかった。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計約3g/m<sup>2</sup>（降灰日数7日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、1,600～2,300トン（8月：1,800～3,300トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過。
- ・ 火山性地震は少ない状態で経過。火山性地震の月回数は68回（8月：163回）で、このうち南西側を震源とする火山性地震は28回（8月：84回）だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、月合計継続時間は7時間30分（8月：4分）だった。

#### 【10月】

- ・ 南岳山頂火口では、10月中旬頃から噴火活動が活発となった。噴火が69回発生し、このうち爆発は33回だった（9月：噴火4回、爆発3回）。また、同火口では概ね期間を通して夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 昭和火口では、噴火及び爆発は発生しなかった（9月：噴火、爆発なし）。また、同火口では、火映は観測されなかった。

- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計約61g/m<sup>2</sup>（降灰日数8日）の降灰を観測。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、2,200～4,200トン（9月：1,600～2,300トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過した。
- ・ 火山性地震は少ない状態で経過。火山性地震の月回数は190回（9月：68回）で、このうち南西側を震源とする火山性地震は14回（9月：28回）だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、月合計継続時間は12時間38分（9月：7時間27分）だった。

### 【11月】

- ・ 南岳山頂火口では、10月中旬頃から噴火活動が活発となったが、11月に入りその噴火活動は低下した。11月は、噴火が11回発生し、このうち爆発は4回だった（10月：噴火69回、爆発33回）。
- ・ 同火口では、概ね期間を通して夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 昭和火口では、噴火及び爆発は発生しなかった（10月：噴火、爆発なし）。同火口では、火映は観測されなかった。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計約3g/m<sup>2</sup>（降灰日数5日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は1,300～4,200トン（10月：2,200～4,200トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過。
- ・ 火山性地震は少ない状態で経過した。火山性地震の月回数は68回（10月：190回）で、このうち南西側を震源とする火山性地震は13回（10月：14回）だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、月合計継続時間は51分（10月：12時間38分）だった。

### 【12月】

- ・ 南岳山頂火口では、噴火が3回発生し、このうち爆発は2回だった（11月：噴火11回、爆発4回）。また、同火口では、概ね期間を通して夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 昭和火口では、噴火及び爆発は発生しなかった（11月：噴火、爆発なし）。また、同火口では、火映は観測されなかった。
- ・ 鹿児島地方気象台（東郡元）では、月合計約0g/m<sup>2</sup>（降灰日数3日）の降灰を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は2,700～2,900トン（11月：1,300～4,200トン）だった。火山ガスの放出量は2022年7月以降、概ね多い状態で経過。
- ・ 火山性地震は少ない状態で経過した。火山性地震の月回数は319回（11月：68回）で、このうち桜島の南西側を震源とする火山性地震は3回（11月：13回）だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生し、月合計継続時間は6分（11月：51分）だった。

### **(3) 火山情報の発表状況**

- 火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）継続中。令和 5 年中には変更なし。

## 霧島山の火山活動

### えびの高原（硫黄山）周辺

#### (1) 令和5年の概況

##### 噴煙など表面現象の状況

- ・ 硫黄山では噴火は観測されなかった。
- ・ 南側の噴気地帯では、噴気の高さが 300m 以下で活発な噴気活動と地熱域を確認。土砂噴出や熱水の流出も時折観測。
- ・ 西側 500m 付近では弱い噴気活動が続いている。
- ・ 3 月 17 日に南側噴気地帯で高さ約 30m の小規模な噴出現象が発生。噴気孔から約 10m 範囲に噴出物としての土砂が確認された。
- ・ 10 月 5 日の現地調査では、南側噴気地帯で引き続き活発な噴気活動が観測され、火口南側斜面及び南側の噴気地帯で地熱域の拡大を確認。
- ・ 2 月 21 日、3 月 7 日、10 月 25 日の上空観測で南側噴気地帯の白色噴気と、西側の地熱域の拡大を確認。

##### 地震や微動の発生状況

- ・ 硫黄山付近では 2022 年以降、火山性地震が一時的に増加し、5 月にはやや多い状態となった。年間回数は 1,818 回（前年は 1,305 回）。
- ・ 震源は主に硫黄山近傍の深さ 0～2km に分布。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳、韓国岳北東、大浪池周辺）では 7 月から 9 月に火山性地震の一時的増加がみられた。年間回数は 521 回（前年は 266 回）。
- ・ 震源はえびの高原周辺の広い範囲に分布。
- ・ 7 月 7 日に継続時間の短い火山性微動が発生（2018 年 6 月 19 日以来）したが、その後は観測されなかった。

##### 地殻変動の状況

- ・ GNSS 連続観測により、2023 年 5 月から 10 月頃にかけて硫黄山近傍の基線で硫黄山付近の膨張を示すわずかな伸びが認められたが、11 月以降は停滞している。

##### 全磁力変化の状況

- ・ 2016 年 2 月以降の全磁力観測で、硫黄山周辺の北側観測点では全磁力の増加、南側観測点では全磁力の減少が観測され、地下での熱消磁現象の進行が示唆されている。

## (2) 各月の経過（えびの高原）

### 【1月】

- ・ 硫黄山の南側の噴気地帯では、噴気が最高で 300m まで上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、噴気が最高で 40m まで上がるなどやや活発な噴気活動が続いた。
- ・ 硫黄山付近では、火山性地震の月回数は 32 回で、前月（2022 年 12 月：180 回）と比べ減少した。火山性地震は少ない状態で経過した。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震の月回数は 13 回（2022 年 12 月：21 回）と少ない状態で経過した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において、2022 年 11 月頃から、硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられたが、2023 年 1 月頃から停滞した。

### 【2月】

- ・ 硫黄山の南側の噴気地帯では、噴気が最高で 500m まで上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 10m 程度の弱い噴気を観測した。
- ・ 硫黄山付近では、火山性地震の月回数は 12 回で、前月（1 月：32 回）と比べ減少した。火山性地震は少ない状態で経過した。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震の月回数は 12 回（1 月：13 回）と少ない状態で経過した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において 2022 年 11 月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられたが、2023 年 1 月頃から停滞した。

### 【3月】

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯では、噴気が最高で 500m まで上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 30m 以下の弱い噴気を観測した。
- ・ 硫黄山付近では、火山性地震の月回数は 252 回（2 月：12 回）で、概ね少ない状態で経過したが、3 月中旬以降わずかに増加した。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震の月回数は 26 回（2 月：12 回）と少ない状態で経過した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において 2022 年 11 月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられたが、2023 年 1 月頃から停滞した。

#### 【4月】

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯では、噴気が最高で 300m まで上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 30m 以下の弱い噴気を観測した。
- ・ 硫黄山付近の火山性地震の月回数は 65 回（3 月：252 回）だった。3 月中旬から 4 月上旬にかけてわずかに増加したが、概ね少ない状態で経過した。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震の月回数は 4 回（3 月：26 回）と少ない状態で経過した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において 2022 年 11 月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられたが、2023 年 1 月頃からは停滞した。

#### 【5月】

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯では、噴気が最高で 300m 以上に上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 20m 以下の弱い噴気を観測した。
- ・ 硫黄山付近の火山性地震の月回数は 457 回（4 月：65 回）だった。5 月上旬から増加し、やや多い状態で経過。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震の月回数は 9 回（4 月：4 回）と少ない状態で経過した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において 2022 年 11 月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられたが、2023 年 1 月頃から停滞した。

#### 【6月～7月7日】

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯で噴気が最高で 400m 以上に上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 10m 以下の弱い噴気を時々観測した。
- ・ 硫黄山付近の火山性地震の 6 月の回数は 360 回（5 月：457 回）だった。5 月上旬に増加しやや多い状態で経過したが、6 月以降はやや減少し概ね少ない状態で経過した。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震の 6 月の回数は 32 回（5 月：9 回）と少ない状態で経過した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において 2023 年 5 月頃から、硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられた。

#### 【7月】（7日に噴火警戒レベルを1から2に引き上げ）

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯で噴気が最高で 500m まで上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 10m

未満の弱い噴気を時々観測した。

- ・ 硫黄山付近の火山性地震の回数は 358 回（6 月：360 回）で前月と同程度だった。5 月上旬に増加しやや多い状態で経過していたが、6 月以降はやや減少し概ね少ない状態で経過。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震の回数は 178 回（6 月：32 回）と前月より増加した。その中でも、韓国岳の北東側周辺では、一時的に火山性地震が増加し、31 日には 49 回発生した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において 2023 年 5 月頃から、硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられた。

### 【8 月】

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯で噴気が最高で 300m 以上に上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 10m 未満の弱い噴気を時々観測した。
- ・ 硫黄山付近の浅い所を震源とする火山性地震は、少ない状態で経過した。硫黄山付近の火山性地震の月回数は 105 回で、前月（7 月：358 回）と比べ減少した。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、韓国岳の北東側周辺で 7 月下旬から 8 月上旬にかけて火山性地震が時々増加したが、その後は少ない状態で経過した。火山性地震の月回数は 88 回で、前月（7 月：178 回）と比較して減少した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において 2023 年 5 月頃から、硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられた。

### 【9 月】

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯で噴気が最高で 300m 以上に上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 10m 未満の弱い噴気を時々観測した。
- ・ 硫黄山付近の浅い所を震源とする火山性地震は、少ない状態で経過した。火山性地震の月回数は 50 回で、前月（8 月：105 回）と比べ減少した。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、15 日に大浪池付近において火山性地震が 13 回と一時的に増加した。また、10 月 1 日 09 時頃から 10 時頃（期間外）にかけて、大浪池付近の浅い所を震源とする地震が発生し、このうち 09 時 11 分頃の地震では、大浪池周辺においてわずかに体を感じる揺れがあった。その後、同領域での地震は発生しなかった。えびの高原周辺の火山性地震の 9 月の回数は 51 回で、前月（8 月：88 回）と比べ減少した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において、2023 年 5 月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられたが、8 月頃から鈍化した。

## 【10月】

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯で噴気が最高で 300m まで上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 20m 以下の弱い噴気を時々観測した。
- ・ 硫黄山付近の浅い所を震源とする火山性地震の月回数は 51 回と、少ない状態で経過（9月：50回）。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震は少ない状態で経過した。1日 09時 11分に大浪池付近の浅い所で発生した地震では、霧島山周辺の施設への聞き取り調査によると、大浪池周辺においてわずかに体に感じる揺れがあった。その後は少ない状態で経過した。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において、2023 年 5 月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びが継続。

## 【11月～12月4日】

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯で噴気が最高で 300m 以上に上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 10m 以下の弱い噴気を時々観測した。
- ・ 硫黄山付近の浅い所を震源とする火山性地震の 11 月の回数は 53 回と、少ない状態で経過した（10月：51回）。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震は少ない状態で経過した。
- ・ 火山性微動は 7 月 8 日以降観測されなかった。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において、2023 年 5 月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びが継続していたが、10 月頃から鈍化し、11 月頃から停滞した。

## 【12月】（6日に噴火警戒レベルを2から1に引き下げ）

- ・ 監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯で噴気が最高で 300m まで上がるなど、活発な噴気活動が続いた。硫黄山の西側 500m 付近の噴気地帯では、高さ 30m 以下の弱い噴気を時々観測した。
- ・ 硫黄山付近の浅い所を震源とする火山性地震の月回数は 24 回と、少ない状態で経過した（11月：53回）。
- ・ えびの高原周辺（韓国岳～韓国岳北東側周辺及び大浪池周辺）では、火山性地震は少ない状態で経過した。
- ・ 火山性微動は 7 月 8 日以降観測されていない。
- ・ GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線において、2023 年 5 月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びが継続していたが、10 月頃から鈍化し、11 月頃から停滞した。

### **(3) 火山情報の発表状況**

- 7月7日17時15分に火口周辺警報を発表。噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げ。
- 12月6日11時00分に噴火予報を発表。噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げ。

## **大幡池**

### **(1) 令和5年の概況**

#### **噴煙などの表面現象の状況**

- ・ 監視カメラによる観測で噴煙は確認されなかった。
- ・ 韓国岳山頂付近からの現地調査で、大幡池及び大幡山付近では噴気や地熱域は観測されなかった。
- ・ 上空観測（2月21日、10月25日）でも、大幡池及び大幡山付近の状況に特段の変化はなく、地熱域も観測されなかった。

#### **地震や微動の発生状況**

- ・ 火山性地震は少なく、年間回数は8回（前年は10回）。
- ・ 震源は大幡池付近の深さ1～5km及び東南東側2kmの深さ1km付近に分布。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。

#### **地殻変動の状況**

- ・ GNSS連続観測では、大幡池及び大幡山を挟む基線には、特段の変化は認められなかった。

### **(2) 各月の経過（大幡池）**

#### **【1月】**

- ・ 震源が求まった火山性地震は、大幡池付近の深さ1km付近。

#### **【2月】**

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回（1月：1回）と、少ない状態で経過した。

#### **【3月】**

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（2月：1回）。

#### **【4月】**

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回と、少ない状態（3月：なし）。

#### 【5月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は3回と、少ない状態（4月：1回）。

#### 【6月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（5月：3回）。

#### 【7月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回と少ない状態（6月：なし）。

#### 【8月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（7月：1回）。

#### 【9月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（8月：なし）。

#### 【10月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回と少ない状態（9月：なし）。

#### 【11月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（10月：1回）。

#### 【12月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（11月：0回）。

### (3) 火山情報の発表状況（大幡池）

- 2023年中変更なし 噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）

## **新燃岳**

### **(1) 令和 5 年の概況**

#### **噴煙など表面現象の状況**

- ・ 白色の噴煙が概ね火口縁上 700m 以下で経過し、火口西側斜面の割れ目からの噴気は概ね 300m 以下だった。
- ・ 韓国岳山頂付近及び新湯温泉付近からの調査で、新燃岳の火口内及び西側斜面の割れ目付近の地熱域を観測。11 月 21 日の観測では西側斜面の割れ目下方側の地熱域が縮小。3 月 28 日の観測では西側斜面割れ目上方の数か所から弱い噴気が観測された。
- ・ 2 月 21 日、3 月 7 日、10 月 25 日に実施された上空からの観測では、新燃岳火口内や火口を覆う溶岩の縁辺部の一部からの噴煙、及び西側斜面の割れ目からの噴気に特段の変化はなかった。
- ・ 火口中央部、縁辺部及び火口西側斜面の割れ目付近に地熱域が確認されたが、過去の観測と比較して温度分布に特段の変化はなかった。

#### **地震や微動の発生状況**

- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、3 月下旬から 4 月上旬、及び 10 月下旬から 11 月上旬にかけて一時的にやや多い状態となった。11 月中旬以降は少ない状態で経過した。
- ・ 火山性地震の年回数は 1,661 回（2022 年：1,706 回）だった。震源は、主に新燃岳火口直下のごく浅い所から深さ 1km 付近に分布した。その他に、新燃岳火口の西側 2km 付近の深さ 3km 付近及び大幡山付近の深さ 3km 付近に分布した。
- ・ 10 月 7 日に継続時間約 90 秒の火山性微動を観測した。火山性微動が発生したのは、2022 年 5 月 13 日以来。

#### **火山ガスの状況**

- ・ 山麓で実施した現地調査によると、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は検出限界未満で経過していたが、10 月以降に 1 日あたり 40～100 トンと、やや少ない状態で推移した。

#### **地殻変動の状況**

- ・ GNSS 連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022 年 11 月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられていたが、2023 年 4 月以降は停滞した。なお、新燃岳を挟む一部の基線に置いて、2022 年 6 月以降は停滞した。10 月 7 日に火山性微動が発生したが、これに伴う傾斜変動は観測されなかった。

## (2) 各月の経過（新燃岳）

### 【1月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上200m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは200m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、2022年7月下旬以降は少ない状態で経過したが、10日、18日から19日、31日にかけて一時的にやや増加した。新燃岳付近を震源とする火山性地震の月回数は121回と、前月（2022年12月：35回）より増加した。火山性微動は観測されなかった。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2021年12月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びが認められた。この変動は2022年7月頃から停滞していたが、2022年11月頃から再びみられた。

### 【2月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上概ね100m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは300m以下で経過。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、2022年7月下旬以降は少ない状態で経過したが、1月以降一時的な増加が時々みられた。新燃岳付近を震源とする火山性地震の月回数は114回と、前月（1月：122回）と同程度だった。火山性微動は観測されなかった。
- ・ 20日に山麓で実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は検出限界未満（前回2022年10月25日：検出限界未満）だった。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2021年12月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びが認められた。この変動は2022年7月頃から停滞していたが、2022年11月頃から再びみられるようになった。

### 【3月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上概ね30m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは300m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、1月以降一時的な増加が時々みられており、3月下旬からやや多い状態で経過した。新燃岳付近を震源とする火山性地震の月回数は151回と、前月（2月：114回）より増加した。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられたが、1月頃から鈍化し、一部の基線では停滞した。

### 【4月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上50m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目で

は、噴気の高さは200m以下で経過した。

- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、1月以降一時的な増加が時々みられており、3月下旬からやや多い状態となったが、4月中旬以降は少ない状態で経過した。新燃岳付近を震源とする火山性地震の月回数は34回と、前月（3月：151回）と比較して減少した。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられていたが、4月以降は停滞した。

#### 【5月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上40m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは100m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、1月以降一時的な増加が時々みられた。3月下旬からやや多い状態となったが、4月中旬以降は少ない状態で経過した。新燃岳付近を震源とする火山性地震の月回数は52回と、前月（4月：34回）と同程度だった。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられていたが、4月以降は停滞した。

#### 【6月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上700m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは200m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、4月中旬以降は少ない状態で経過した。新燃岳付近を震源とする火山性地震の月回数は64回と、前月（5月：52回）と同程度だった。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられていたが、4月以降は停滞した。

#### 【7月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上100m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは200m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震の月回数は108回と、前月（6月：64回）と比較して増加したが、4月中旬以降は少ない状態で経過した。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられたが、2023年4月以降は停滞した。

#### 【8月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上400m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは200m以下で経過した。

- ・ 29日に新燃岳西側約2kmのやや深い所を震源とする火山性地震が一時的に増加した。新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、4月中旬以降少ない状態で経過した。火山性地震の月回数は139回（7月：108回）で、このうち、新燃岳西側約2kmのやや深い所を震源とする火山性地震の月回数は19回（7月：なし）だった。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられていたが、2023年4月以降は停滞した。

### 【9月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上400m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは200m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、4月中旬以降少ない状態で経過した。新燃岳付近を震源とする火山性地震の月回数は83回と前月（8月：139回）と比較して減少した。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられていたが、2023年4月以降は停滞した。

### 【10月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上200m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは100m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、10月下旬から増加し、やや多い状態で経過した。新燃岳付近の火山性地震の月回数は464回で、前月（9月：83回）と比較して増加した。
- ・ 10日及び11月1日に山麓で実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり40トン及び100トンとやや少ない状態だった（前回2月20日：検出限界未満）。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量を検量できたのは2021年2月4日（1日あたり100トン）以来。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられていたが、2023年4月以降は停滞した。

### 【11月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上100m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは200m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、10月下旬から11月上旬にかけてやや多い状態となったが、その後は少ない状態で経過した。新燃岳付近の火山性地震の月回数は220回で、前月（10月：464回）と比較して減少した。

- ・ 1日及び7日に山麓で実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり100トンとやや少ない状態だった。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられていたが、2023年4月以降は停滞した。

#### 【12月】

- ・ 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上100m以下で経過した。火口西側斜面の割れ目では、噴気の高さは200m以下で経過した。
- ・ 新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、11月中旬以降は少ない状態で経過した。新燃岳付近の火山性地震の月回数は109回で、前月（11月：220回）と比較して減少した。
- ・ GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線において、2022年11月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる伸びがみられたが、2023年4月以降は停滞した。

#### (3) 火山情報の発表状況（新燃岳）

- 2023年中変更なし 噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）

## **御鉢**

### **(1) 令和5年の概況**

#### **噴煙などの表面現象の状況**

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 3月8日に実施した現地調査では、これまでの観測と比較して、火口底付近、火口壁西側の地熱域の状況に特段の変化は認められなかった。
- ・ 火口壁南側において2022年11月16日の観測では確認できなかった地熱域が確認された。火口内で弱い噴気を確認し、風下側の火口縁でわずかな臭気を確認した。
- ・ 2月21日の観測では、いずれも火口内及び火口周辺の状況に特段の変化は認められなかった。

#### **地震や微動の発生状況**

- ・ 火山性地震は少ない状態で経過した。年回数は12回(2022年：2回)だった。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されなかった。

### **(2) 各月の経過（御鉢）**

#### **【1月】**

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった(2022年12月：なし)。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### **【2月】**

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった(1月：なし)。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### **【3月】**

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回(2月：なし)だった。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### **【4月】**

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回(3月：1回)だった。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### 【5月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回（4月：1回）だった。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### 【6月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（5月：1回）。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### 【7月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回（6月：なし）だった。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### 【8月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は2回（7月：1回）だった。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### 【9月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は5回（8月：2回）だった。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### 【10月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（9月：5回）。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### 【11月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震は観測されなかった（10月：なし）。
- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

#### 【12月】

- ・ 監視カメラによる観測では、噴煙は認められなかった。
- ・ 火山性地震の月回数は1回（11月：なし）だった。

- ・ 火山性微動は2018年2月10日以降、観測されていない。

### **(3) 火山情報の発表状況（御鉢）**

- 2023 年中変更なし 噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）

火山名 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）噴火警報（火口周辺）  
令和5年7月7日17時15分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）に火口周辺警報（噴火警戒レベル2  
火口周辺規制）を公表>

硫黄山火口から概ね1kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

<噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）  
に引上げ>

＊＊（本文）＊＊

#### 1. 火山活動の状況及び予報警報事項

硫黄山では、GNSS連続観測で硫黄山近傍の基線において、2023年5月頃から、硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられています。そのなかで、硫黄山付近において、本日（7日）16時50分に火山性微動が発生しました。

硫黄山の火山活動は高まった状態となっています。硫黄山火口から概ね1kmの範囲では、大きな噴石に警戒してください。

#### 2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県：えびの市

鹿児島県：霧島市

#### 3. 防災上の警戒事項等

硫黄山火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等にも留意してください。

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（高齢者等避難）】：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制

等。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火予報：警報解除  
令和5年12月6日11時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊＊（見出し）＊＊

<霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）に噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）：警報解除を発表>

硫黄山火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなりました。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ>

＊＊（本文）＊＊

### 1. 火山活動の状況及び予報警報事項

G N S S連続観測では、硫黄山近傍の基線において、2023年5月頃から硫黄山の山体浅部における膨張と考えられるわずかな伸びが認められましたが、10月頃から鈍化し11月頃から停滞しています。

硫黄山火口付近の火山性微動は、7月8日以降発生しておらず、硫黄山付近の浅いところを震源とする火山性地震は、少ない状態で経過しています。

これらのことから、硫黄山火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと考えられます。

### 2. 対象市町村等

以下の市町村では、特段の警戒が必要なくなりました。

宮崎県：えびの市

鹿児島県：霧島市

### 3. 防災上の警戒事項等

現在活発な噴気活動がみられている硫黄山火口内、及び硫黄山の西側500mの噴気地帯から概ね100mの範囲では、熱水・熱泥等が飛散する可能性がありますので注意してください。また、火山ガスにも注意が必要です。

地元自治体等が行う立ち入り規制に従うとともに、火口周辺や噴気孔の近くにはとどまらないでください。

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（高齢者等避難）】：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。  
（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

## 薩摩硫黄島の火山活動

### (1) 令和5年の概況

#### 噴煙など表面現象の状況

- ・ 硫黄岳火口では噴火は観測されず、白色の噴煙は火口縁上 1,000m 以下で推移（最高 1,100m 以上）。
- ・ 年間を通して夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 上空からの観測（1月11日、3月8日、8月21日、8月23日、10月17日）で、噴煙や噴気の状況に特段の変化は確認されず。
- ・ 薩摩硫黄島周辺海域では引き続き変色水を観測。
- ・ 11月7日から11日に現地調査実施。噴煙や地熱域の状況に特段の変化は確認されなかった。

#### 地震や微動の発生状況

- ・ 火山性地震は1日数回程度と少ない状態が続いたが、11月下旬以降はやや多く、年間回数は2,151回となった。前年（1,900回）と同程度。
- ・ 高周波地震の回数は524回で、前年（554回）に比べてやや減少。
- ・ 震源は硫黄岳火口付近の深さ約0～1km及び南海域の深さ約2～5kmに分布。
- ・ 11月30日には島外が震源と推定される振幅の大きな火山性地震が発生したが、火山活動に特段の変化はなかった。
- ・ 振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が7回発生し、前年（1回）に比べて増加。火山性微動の観測は2022年7月以来。

#### 火山ガスの状況

- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり400～1,700トンで推移し、平均して1,000トン前後（2022年は300～1,600トン）だった。

#### 地殻変動の状況

- ・ GNSS連続観測では、2015年頃から一部の基線で長期的な縮みの傾向がみられる。

### (2) 各月の経過

#### 【1月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上800m（2022年12月：700m）まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は146回（2022年12月：116回）と前月より増加。このうち、高

周波地震の月回数は30回（2022年12月：26回）だった。

- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり500～1,400トン（2022年12月：600～1,500トン）と、1日あたり1,000トン前後の状態が継続。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、硫黄岳火口の直下付近に分布。

#### 【2月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上800m（1月：800m）まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は135回（1月：146回）と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は39回（1月：30回）だった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり600～800トン（1月：500～1,400トン）と1日あたり1,000トン前後の状態が継続。

#### 【3月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上1,100m以上（2月：800m）まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は94回（2月：135回）と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は31回（2月：39回）だった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり500～600トン（2月：600～800トン）と、やや少ない状態だった。長期的には1,000トン前後の状態が継続。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、硫黄岳火口付近と薩摩硫黄島の南海域の深さ 1～2 km 付近に分布。

#### 【4月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 800m（3月：1,100m 以上）まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は 82 回（3月：94 回）と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は 42 回（3月：31 回）だった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり 500～700 トン（3月：500～600 トン）と、やや少ない状態だった。長期的には 1,000 トン前後の状態が継続。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、硫黄岳火口の直下の深さ 0km 付近と薩摩硫黄島の南海域の深さ 5 km 付近に分布。

### 【5月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 500m (4月：800m) まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は 95 回 (4月：82 回) と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は 30 回 (4月：42 回) だった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は、1 日あたり 500~1,000 トン (4月：500~700 トン) とやや少ない状態だった。長期的には 1,000 トン前後の状態が継続。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、薩摩硫黄島の南海域の深さ 2 km 付近に分布。

### 【6月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 700m (5月：500m) まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は 105 回 (5月：95 回) と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は 46 回 (5月：30 回) だった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は、1 日あたり 700 トン (5月：500~1,000 トン) とやや少ない状態だった。長期的には 1,000 トン前後の状態が継続。

### 【7月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 700m (6月：700m) まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は 124 回 (6月：105 回) と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は 70 回 (6月：46 回) だった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は、1 日あたり 1,100 トン (6月：700 トン) とやや多い状態だった。長期的には 1 日あたり 1,000 トン前後の状態が継続。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、硫黄岳火口付近のごく浅い所に分布。

### 【8月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 1,000m (7月：700m) まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は 71 回 (7月：124 回) と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は 38 回 (7月：70 回) だった。
- ・ 8月7日に、継続時間の短い火山性微動が発生。火山性微動が観測されたのは、2022年7月3日以来。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は、1 日あたり 800~1,500 トン (7月：1,100 トン) とやや多い状態だった。長期的には 1 日あたり 1,000 トン前後の状態が継続。

### 【9月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 900m (8月：1,000m) まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は 75 回 (8月：71 回) と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は 44 回 (8月：38 回) だった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 2023 年 9 月以降、気象条件等の影響で火山ガス (二酸化硫黄) 放出量の観測値を得ることができなくなった。長期的には 1 日あたり 1,000 トン前後の状態が継続。

### 【10月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 1,000m 以上 (9月：900m) に上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は 86 回 (9月：75 回) と少ない状態で経過。このうち、高周波地震の月回数は 28 回 (9月：44 回) だった。
- ・ 振幅の小さな火山性微動が 1 日に 2 回、19 日に 1 回発生。火山性微動が観測されたのは、2023 年 8 月 7 日以来。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は、1 日あたり 400~1,000 トン (9月：観測値なし) と、やや多い状態。長期的には 1 日あたり 1,000 トン前後の状態が継続。

### 【11月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 1,000m 以上 (10月：1,000m 以上) に上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震の月回数は 286 回で、前月 (10月：86 回) より増加した。このうち、高周波地震の月回数は 63 回 (10月：28 回) だった。
- ・ 振幅の小さな火山性微動が 8 日に 1 回発生した。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は、1 日あたり 1,200~1,700 トン (10月：400~1,000 トン) と、やや多い状態。長期的には 1 日あたり 1,000 トン前後の状態が継続。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、硫黄岳火口付近のごく浅い所に分布。

### 【12月】

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 700m (11月：1,000m 以上) まで上がった。
- ・ 硫黄岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 火山性地震は 11 月下旬から増加し、やや多い状態。月回数は 852 回で、前月 (11月：286 回) より増加。このうち、高周波地震の月回数は 63 回 (11月：63 回) だった。
- ・ 振幅の小さな火山性微動が 22 日に 2 回発生。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は、1 日あたり 500~1,100 トン (11月：1,200~1,700 トン) と、やや少ない状態。長期的には 1 日あたり 1,000 トン前後の状態が継続。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、硫黄岳火口付近のごく浅い所から深さ 1km 付近に分布。

### **(3) 火山情報の発表状況**

- 火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）継続中。令和 5 年中には変更なし。

## 口永良部島の火山活動

### (1) 令和5年の概況

#### 噴煙など表面現象の状況

- ・ 2020年8月30日以降、口永良部島で噴火は観測されていない。
- ・ 新岳では白色の噴煙が火口縁上500mまで上がったが、特段の変化はなかった。
- ・ 古岳では7月下旬以降に白色の噴煙が観測され、最高で火口縁上300mまで上昇。
- ・ 上空観測（1月11日、3月8日）で、新岳と古岳の火口内で弱い噴気を確認したが、新たな噴気や地熱域の拡大はみられなかった。
- ・ 6月7日の現地調査では、古岳火口内南東側の噴気温度が上昇していることを確認。
- ・ 8月の無人航空機による調査では、古岳火口内で地熱域の拡大と新たな噴気地帯の形成、土砂の噴出を確認。
- ・ 10月17日と11月24日の上空観測では、噴煙量の減少を確認。

#### 地震や微動の発生状況

- ・ 火山性地震は6月以降増加。
- ・ 古岳付近で火山性地震が多く、7月中旬、8月2日、10月下旬～11月中旬、12月下旬に増加。
- ・ 新岳付近でも時折増加。
- ・ 震源は新岳火口及び古岳火口付近の浅い場所と口永良部島西側の深さ7km付近に分布。
- ・ 9月30日に火山性微動が1回発生。

#### 火山ガスの状況

- ・ 二酸化硫黄の放出量は8月以降200～400トンと増加し、その後減少し、12月には100トン前後となった。

#### 地殻変動の状況

- ・ 2023年6月下旬から古岳付近の膨張が観測され、11月から停滞。
- ・ SAR（合成開口レーダー）データでは、5月以降古岳火口付近に衛星に近づく変動が認められたが、9月以降はノイズレベルを超える変動はみられなかった。

### (2) 各月の経過

#### 【1月】

- ・ 白色の噴煙が最高で新岳の火口縁上400m（2022年12月：200m）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、検出限界を下回り少ない状態（2022年12月：20

トン) だった。

- ・ 新岳火口付近及び古岳付近の浅い所が震源と推定される火山性地震は、概ね少ない状態で経過。火山性地震の月回数は101回（2022年12月：119回）で前月と同程度。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震はなかった。

#### 【2月】

- ・ 白色の噴煙が最高で新岳の火口縁上400m（1月：400m）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり10トン（2日）と少ない状態で、検出限界を下回る日もみられた（1月：検出限界未満）。
- ・ 新岳火口付近及び古岳付近の浅い所が震源と推定される火山性地震は、概ね少ない状態で経過。火山性地震の月回数は62回（1月：101回）で前月から減少。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源の求まった火山性地震の深さは、新岳直下の0km付近だった。

#### 【3月】

- ・ 白色の噴煙が最高で新岳の火口縁上200m（2月：400m）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり30トン（2月：10トン）と少ない状態で、検出限界を下回る日もみられた。
- ・ 新岳火口付近及び古岳付近の浅い所が震源と推定される火山性地震は、概ね少ない状態で経過。火山性地震の月回数は84回（2月：62回）で前月と同程度。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 火山性地震の震源は、古岳付近の深さ0km付近に観測された。

#### 【4月】

- ・ 白色の噴煙が最高で新岳の火口縁上200m（3月：200m）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり10トン（3月：30トン）と少ない状態で、検出限界を下回る日もみられた。
- ・ 新岳火口付近及び古岳付近の浅い所が震源と推定される火山性地震は、概ね少ない状態で経過した。火山性地震の月回数は45回（3月：84回）で前月と比較して減少した。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、古岳付近の深さ0km付近に分布。

#### 【5月】

- ・ 白色の噴煙が最高で新岳の火口縁上400m（4月：200m）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり20トン（4月：10トン）と少ない状態で、検出限界を下回る日もみられた。
- ・ 新岳火口付近及び古岳付近の浅い所が震源と推定される火山性地震は、概ね少ない状

態で経過。火山性地震の月回数は41回（4月：45回）で前月と同程度だった。

- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、新岳火口及び古岳付近の深さ0kmから1km付近に分布。

**【6月】**（26日、古岳に対する噴火警戒レベルを1から2に、27日に2から3へ引き上げ）

- ・ 白色の噴煙が最高で新岳の火口縁上500m（5月：400m）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり10トン（5月：20トン）と少ない状態だった。
- ・ 主に古岳付近の浅い所が震源と推定される火山性地震が、6月以降次第に増加、19日以降は概ね多い状態となり、27日にはさらに増加した。火山性地震の月回数は261回（5月：41回）で前月より増加した。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、新岳火口及び古岳付近の深さ0kmから1km付近に分布。

**【7月】**（10日、新岳に対する噴火警戒レベルを3に切替え）

- ・ 白色の噴煙が最高で新岳の火口縁上400m（6月：500m）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、2021年6月以降、概ね50トンと少ない状態だったが、20日の観測では100トンとやや多い状態であった（6月：10トン）。
- ・ 主に古岳付近の浅い所が震源と推定される火山性地震が、6月下旬頃から多い状態となり、9日からさらに増加した。火山性地震の月回数は3,160回（古岳付近：3,062回、新岳付近：98回）で前月（6月：261回）より増加した。
- ・ 新岳西側山麓付近の火山性地震は観測されなかった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、新岳火口及び古岳付近のごく浅い所から深さ1km付近に分布。

**【8月】**

- ・ 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上500m（7月：400m）まで上がった。
- ・ 古岳火口では、17日に監視カメラでの観測開始（2004年3月10日）以降、初めて古岳の噴煙を観測し、期間中では白色の噴煙が最高で火口縁上200mまで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、200～400トンとやや多い状態で、前月より増加傾向がみられた（7月：100トン）。
- ・ 古岳付近で発生している火山性地震は減少傾向だが、引き続き多い状態で経過。2日には一時的に増加し、振幅の大きな地震も発生した。新岳火口付近でも時折発生した。火山性地震の月回数は950回（7月：3,160回）だった。古岳付近の火山性地震は909回（7月：3,062回）、新岳付近の火山性地震は41回（7月：98回）で、ともに前月より減少した。
- ・ 新岳西側山麓付近の火山性地震は観測されなかった。

- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、新岳火口及び古岳付近のごく浅い所から深さ1km付近に分布。

#### 【9月】

- ・ 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 400m（8月：500m）まで上がった。
- ・ 古岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 300m（8月：200m）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、100～400トン（8月：200～400トン）とやや多い状態で推移した。
- ・ 火山性地震の月回数は587回（8月：950回）で前月に比べ減少した。古岳火口付近の火山性地震は467回（8月：909回）で前月に比べ減少したが、引き続き多い状態。新岳火口付近の火山性地震は119回（8月：41回）で、中旬頃からやや増加。
- ・ 新岳西側山麓付近の火山性地震は観測されなかった。
- ・ 火山性微動は30日に1回発生した。口永良部島での火山性微動の発生は2021年11月15日以来だった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、新岳火口及び古岳火口付近のごく浅い所から深さ1km付近に分布。

#### 【10月】

- ・ 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 400m（9月：400m）まで上がった。
- ・ 古岳火口では、遠望カメラから噴煙は確認されなかった（9月：300m）。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、80～300トン（9月：100～400トン）とやや多い状態で推移した。
- ・ 火山性地震の月回数は1,219回（9月：587回）で、前月と比べ増加した。古岳火口付近の火山性地震は1,019回（9月：467回）で、10月下旬頃から増加し引き続き多い状態。新岳火口付近の火山性地震は200回（9月：119回）で、前月と比べてやや増加した。
- ・ 新岳西側山麓付近の火山性地震は観測されなかった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、新岳火口及び古岳火口付近のごく浅い所から深さ1km付近に分布。

#### 【11月】

- ・ 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 400m（10月：400m）まで上がった。
- ・ 古岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 100m（10月は観測なし）まで上がった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、50～200トン（10月：80～300トン）とやや多い状態で推移した。
- ・ 火山性地震の月回数は2,601回（10月：1,219回）だった。古岳火口付近の火山性地

震は2,586回（10月：1,019回）で、前月より増加した。新岳火口付近の火山性地震は14回（10月：200回）で、前月と比べて減少した。

- ・ 新岳西側山麓付近の火山性地震は観測されなかった。
- ・ 火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、新岳火口及び古岳火口付近のごく浅い所から深さ1km付近に分布。

#### 【12月】

- ・ 新岳では、白色の噴煙が最高で火口縁上400m（11月：400m）まで上がった。
- ・ 古岳では火口縁を超える噴煙は、監視カメラで観測されなかったが（11月：火口縁上100m）、現地調査において火口縁をわずかに超える白色の噴煙を観測した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、50～100トン（11月：50～200トン）とやや多い状態で推移した。
- ・ 火山性地震の月回数は1,037回（11月：2,601回）と前月と比べて減少したが、2023年6月以降、増加した状態が続いた。古岳火口付近の火山性地震は973回（11月：2,586回）、新岳火口付近の火山性地震は63回（11月：14回）だった。
- ・ 新岳西側山麓付近の火山性地震及び火山性微動は観測されなかった。
- ・ 震源が求まった火山性地震は、新岳火口及び古岳火口付近のごく浅い所から深さ1km付近、及び口永良部島の西側の深さ7km付近に分布。

### (3) 火山情報の発表状況

- 6月26日04時40分に火口周辺警報を発表。噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げ。
- 6月27日18時42分に火口周辺警報を発表。噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ。
- 7月10日16時00分に火口周辺警報を発表。噴火警戒レベル3（入山規制）を切替え。（警戒が必要な範囲の拡大）

火山名 口永良部島 噴火警報（火口周辺）

令和5年6月26日04時40分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊＊（見出し）＊＊

<口永良部島に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表>

新岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

<噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

＊＊（本文）＊＊

#### 1. 火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、新岳火口付近及び古岳付近の浅いところを震源とする火山性地震が増加しています。火山性地震は、17日から本日（26日）までの10日間で100回発生しています。

火山活動が高まっていますので、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。新岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

#### 2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：屋久島町

#### 3. 防災上の警戒事項等

新岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（高齢者等避難）】：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制

等。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 口永良部島 噴火警報（火口周辺）

令和5年6月27日18時42分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊ ＊（見出し）＊ ＊

<口永良部島に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表>

新岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引上げ>

＊ ＊（本文）＊ ＊

#### 1. 火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、本日（27日）から山体の浅いところを震源とする火山性地震が多発しています。火山性地震は前24時間で50回発生しています。

口永良部島では火口から概ね2 km以内に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。新岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

#### 2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：屋久島町

#### 3. 防災上の警戒事項等

新岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（高齢者等避難）】：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 口永良部島 噴火警報（火口周辺）

令和5年7月10日16時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊ ＊（見出し）＊ ＊

<口永良部島の火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切替>

口永良部島では、古岳においても噴火の可能性が高まったことから、これまでの警戒が必要な範囲に加え古岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊ ＊（本文）＊ ＊

#### 1. 火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、古岳付近の浅いところを震源とする火山性地震が6月下旬頃から多い状態となっていました。昨日（9日）からさらに増加しており、振幅もやや大きくなっています。

このことから、新岳に加え、古岳においても噴火の可能性がります。

口永良部島では、新岳火口及び古岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

#### 2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：屋久島町

#### 3. 防災上の警戒事項等

新岳火口及び古岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（高齢者等避難）】：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

## 諏訪之瀬島の火山活動

### (1) 令和 5 年の概況

#### 噴煙など表面現象の状況

- ・ 御岳火口では噴火活動が継続し、1 月下旬から 3 月中旬及び 6 月中旬に一時的に活発化。その後、爆発は減少し、10 月を除いて発生はなかった。年間の爆発回数は 186 回（前年は 1,329 回）に減少。
- ・ 大きな噴石は最大で火口中心から約 900m まで飛散し、噴煙は最高で火口縁上 2,400m（前年は 3,300m）に達した。3 月には噴煙の高さが 2,000m を超える噴火が複数回発生。
- ・ 火口では年間を通じて夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・ 上空からの観測（1 月 11 日、3 月 8 日、8 月 21 日、10 月 17 日）で噴火活動の継続を確認。赤外熱映像装置で火口内及び周辺の地熱域を引き続き確認。
- ・ 十島村役場では、鳴動や降灰、爆発音が時々確認した。

#### 地震や微動の発生状況

- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は 3,144 回（前年は 9,290 回）で減少。
- ・ 島の西側の火山性地震は 482 回（前年は 3,372 回）で減少。
- ・ 震源は御岳火口付近から諏訪之瀬島の西側の深さ 0～3km 及び 6km 付近に分布。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生。

#### 地殻変動の状況

- ・ GNSS 観測では、島の西側深部にマグマの蓄積増加は認められず。
- ・ ナベタオ傾斜計では、1 月中旬～3 月下旬と 5 月中旬に西上がり と 西下がり の変動が観測され、6 月中旬に爆発が増加。これらはマグマの蓄積と上昇を示唆。

#### 火山ガスの状況

- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の 1 日あたりの放出量は概ね 1,000 トン前後で推移し、5 月には 2,000 トンを超える日もあった。

### (2) 各月の経過

【1 月】（24 日に噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引き下げ）

- ・ 26 日の噴火では、噴煙が火口縁上 1,700m まで上がり雲に入った。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口中心から最大で約 400m まで飛散した。
- ・ 26 日から 30 日かけて一時的に爆発が増加し、爆発の月回数は 13 回（2022 年 12 月：

なし) で前月より増加した。

- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は 1 日あたり 400~800 トン (2022 年 12 月 : 200~600 トン) とやや少ない状態だった。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震の月回数は、188 回 (2022 年 12 月 : 140 回) で前月と同程度だった。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震の月回数は 50 回 (2022 年 12 月 : 44 回) で前月と同程度だった。
- ・ 火山性微動は、主に噴火に伴って発生した。

## 【2 月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 2,000m まで上がった (18 日、27 日)。御岳火口では、1 月下旬以降、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 爆発は 15 日及び 21 日に一時的に増加した。月回数は 56 回 (1 月 : 13 回) と前月より増加した。爆発増加時には空振の振幅も増大した。3 月以降 (期間外) も 2 日から爆発が増加し、5 日までに 28 回発生した。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で火口中心から約 900m まで飛散した (15 日)。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震の月回数は、449 回 (1 月 : 189 回) で前月より増加した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震の月回数は少ない状態だが、119 回 (1 月 : 50 回) で前月より増加した。3 月以降 (期間外) も少ない状態で経過した。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は 1 日あたり 700 トン (1 月 : 200~600 トン) でやや少ない状態が続いた。
- ・

## 【3 月】 (5 日に噴火警戒レベルを 2 から 3 に引き上げ)

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 2,400m まで上がった (16 日)。御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。
- ・ 爆発は 1 月下旬から増減を繰り返し、2 日から 6 日にも一時的な増加が認められた。爆発の月回数は 65 回 (2 月 : 56 回) で前月と同程度だった。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で火口中心から約 500m まで飛散した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震の月回数は、422 回 (2 月 : 449 回) で前月と同程度だった。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しており、月回数は 63 回 (2 月 : 119 回) と前月より減少した。
- ・ 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は 1 日あたり 200~1,100 トン (2 月 : 700 トン) で推移した。

#### 【4月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 2,000m まで上がった。御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。
- ・ 爆発の月回数は1回で、前月（3月：65回）よりも減少した。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で火口中心から約 500m まで飛散した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震の月回数は 129 回（3月：422回）と前月より減少した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しており、月回数は 32 回（3月：63回）と前月より減少した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり 200～1,400 トン（3月：200～1,200 トン）で推移した。

#### 【5月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 1,800m 以上（4月：2,000m）に上がった。御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。
- ・ 爆発は8日に一時的に増加し5回発生した。爆発の月回数は7回（4月：1回）と引き続き少ない状態で経過した。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で火口中心から約 300m まで飛散した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、19日に2,600 トンと増加したが、その他の日は 400～700 トン（4月：200～1,400 トン）と少ない状態で推移した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は多い状態で経過し、月回数は 205 回（4月：129回）と前月より増加した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しており、月回数は 44 回（4月：32回）と前月と同程度だった。

#### 【6月】（9日に噴火警戒レベルを3から2に引き下げ）

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 2,000m 以上（5月：1,800m 以上）に上がった。御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。
- ・ 爆発の回数は3月下旬から減少していたが、13日から19日にかけて一時的に増加した。爆発の月回数は31回（5月：7回）と前月より増加した。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で火口中心から約 400m まで飛散した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、27日に100 トン（5月：400～2,600 トン）と少ない状態だった。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は多い状態で経過し、月回数は 722 回（5月：205回）と前月より増加した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過し、月回数は 28 回（5月：44回）と前月と同程度だった。

### 【7月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 1,700m (6月：2,000m 以上) まで上がった。御岳火口では、28日の夜間に高感度の監視カメラで火映を観測した。
- ・ 爆発は発生しなかった。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は観測されなかった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり 400～800 トン（6月：100 トン）とやや少ない状態で推移した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は少ない状態で経過し、月回数は 68 回（6月：722 回）と前月より減少した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過し、月回数は 11 回（6月：28 回）と前月より減少した。

### 【8月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 1,400m (7月：1,700m) まで上がった。
- ・ 爆発は発生しなかった。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は観測されなかった。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり 400～700 トン（7月：400～800 トン）とやや少ない状態で推移した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は月回数 79 回（7月：68 回）と少ない状態で経過した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は月回数 17 回（7月：11 回）で少ない状態で経過した。

### 【9月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 2,000m (8月：1,400m) 以上に上がった。
- ・ 爆発は発生しなかった。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は火口中心から最大で約 300m まで飛散した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり 600～1,600 トン（8月：400～700 トン）で推移した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は月回数 82 回（8月：79 回）と少ない状態で経過した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は月回数 18 回（8月：17 回）で少ない状態で経過した。

### 【10月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 1,900m (9月：2,000m 以上) まで上がった。
- ・ 爆発は 10月上旬から中旬にかけて時々発生し、月回数は 13 回だった。爆発が発生したのは 2023 年 6 月以来だった。

- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は火口中心から最大で約 600m まで飛散した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 400～900 トン（9 月：600～1,600 トン）で推移した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は月回数 184 回（9 月：82 回）とやや多い状態だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態だったが、月回数 43 回（9 月：18 回）で前月より増加した。

#### 【11 月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 1,200m 以上（10 月：1,900m）に上がった。
- ・ 爆発は発生しなかった（10 月：13 回）。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は火口中心から最大で約 300m まで飛散した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 500～900 トン（10 月：400～900 トン）で推移した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は月回数 52 回（10 月：184 回）と少ない状態だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は月回数 22 回（10 月：43 回）と少ない状態で経過した。

#### 【12 月】

- ・ 噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 1,200m（11 月：1,200m 以上）に上がった。
- ・ 爆発は発生しなかった（11 月：なし）。
- ・ 弾道を描いて飛散する大きな噴石は火口中心から最大で約 300m まで飛散した。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 200～300 トン（11 月：500～900 トン）で推移した。
- ・ 御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震は月回数 59 回（11 月：52 回）と少ない状態だった。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生した。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は月回数で 35 回（11 月：22 回）と少ない状態で経過した。

### (3) 火山情報の発表状況

- 1 月 24 日 11 時 00 分に火口周辺警報を発表。噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引き下げ。
- 3 月 5 日 06 時 40 分に火口周辺警報を発表。噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）から 3

- (入山規制) に引き上げ。
- 6月9日 11時00分に火口周辺警報を公表。噴火警戒レベル3(入山規制) から2(火口周辺規制) に引き下げ。

火山名 諏訪之瀬島 噴火警報（火口周辺）

令和5年1月24日11時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊＊（見出し）＊＊

<諏訪之瀬島に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表>

諏訪之瀬島では、御岳（おたけ）火口中心から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなりました。

<噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ>

＊＊（本文）＊＊

#### 1. 火山活動の状況及び予報警報事項

諏訪之瀬島の御岳（おたけ）火口では、昨年（2022年）9月下旬から10月中旬にかけて爆発が増加するなど、噴火活動が活発化していましたが、その後爆発は減少し、噴火活動は低調な状態で推移しています。その他の観測データにも火山活動の活発化を示す変化はみられていません。

これらのことから、御岳火口中心から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられます。しかしながら、現在も噴火活動が継続していることから、御岳火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

#### 2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：十島村

#### 3. 防災上の警戒事項等

御岳火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（高齢者等避難）】：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 諏訪之瀬島 噴火警報（火口周辺）

令和5年3月5日06時40分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊＊（見出し）＊＊

<諏訪之瀬島に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表>

御岳（おたけ）火口中心から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ>

＊＊（本文）＊＊

#### 1. 火山活動の状況及び予報警報事項

諏訪之瀬島の御岳火口では、2日から爆発が増加しており、噴火活動が活発化しています。

1日から本日（5日）までの5日間に25回発生しました。

諏訪之瀬島では、火山活動が高まっていますので、御岳火口中心から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う大きな噴石に警戒してください。

#### 2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：十島村

#### 3. 防災上の警戒事項等

御岳火口中心から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（高齢者等避難）】：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 諏訪之瀬島 噴火警報（火口周辺）

令和5年6月9日11時00分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊ ＊（見出し）＊ ＊

＜諏訪之瀬島に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表＞

諏訪之瀬島では、御岳（おたけ）火口中心から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなりました。

＜噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ＞

＊ ＊（本文）＊ ＊

#### 1. 火山活動の状況及び予報警報事項

諏訪之瀬島の御岳（おたけ）火口では、活発な噴火活動が続いていましたが、3月下旬から爆発は減少し、噴火の規模も次第に小さくなるなど、噴火活動に低下傾向が認められます。その他の観測データにも火山活動の活発化を示す変化はみられていません。

これらのことから、御岳火口中心から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられます。しかしながら、現在も噴火活動が継続していることから、御岳火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

#### 2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：十島村

#### 3. 防災上の警戒事項等

御岳火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（高齢者等避難）】：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。  
（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）